



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

第1回アジア・太平洋水サミット

-水の安全保障:リーダーシップと責任-



Asia-Pacific
Water Forum



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

第1回アジア・太平洋水サミット事務局



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

1. サミット開催概要

- 名称: 第1回アジア・太平洋水サミット
- 会期: 2007年12月3日(月)、4日(火)
- 開催地: 大分県別府市 ビーコンプラザ
- 主催者: アジア・太平洋水フォーラム
第1回アジア・太平洋水サミット運営委員会



Asia-Pacific
Water Forum

- 議長
森喜朗 第1回アジア・太平洋水サミット運営委員長
- 副議長
タジキスタン共和国 エマムアリ・ラフモン 大統領閣下
キリバス共和国 アノテ・トン 大統領閣下
ブータン王国 キンザン・ドルジ 首相閣下
カンボジア王国 リム・キーン 水資源・気象大臣
中華人民共和国 フー・スーイー 水利部副部長
- 書記
エルナ・ウィットラー APWF執行審議会副議長
ラヴィ・ナラヤナン APWF執行審議会副議長





2. アジア・太平洋水フォーラムとサミット

水の安全保障:リーダーシップと責任



1st Asia-Pacific
Water Forum
Beppu

「アジア・太平洋水フォーラム」～Asia-Pacific Water Forum (APWF)～

「水問題解決に、知識・経験をより効率的に共有すべきである」との共通認識から設立された、地域内の国連機関、政府組織、市民組織、地域開発銀行、研究機関等あらゆる水関係者を含むゆるやかなネットワーク

「第4回世界水フォーラム」において、橋本龍太郎前日本水フォーラム会長が設立を宣言

「アジア・太平洋水サミット」～Asia-Pacific Water Summit (APWS)～

「アジア・太平洋水フォーラム」の活動の一つとして、2～3年に1度実施

水問題は国土の発展、国民の健康、教育、国土保全等、国の根幹に関わるあらゆる分野に関係しており、国家の指導者が先頭に立って取り組むべき課題

その議論に、国連機関、政府組織、市民組織、地域開発銀行、研究機関、企業等のトップの方が加わることによって、世の中の流れをつくることのできる



2006年3月 第4回世界水フォーラム(メキシコシティ)



2006年9月 APWF発足式典(マニラ)



3. 数字で見るサミット



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

・ 各国代表団数 36国・地域

＊ 首脳級10カ国／大臣クラス32名、計231名

・ 招待出席者:各界リーダー等 140名

(うち、海外から約70名)

⇒サミット本体参加者数 56国・地域より計371名





1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (1) 開会式



【開会挨拶】

森喜朗・第1回アジア・太平洋水サミット運営委員長

- アジア・太平洋地域では、5人に1人(7億人)が安全な飲料水を利用できず、人口の約半数が適切な衛生設備を利用できない
- 水関連災害による全世界の死者の80%はこの地域で発生している
- 水問題は、国のあり方に大きな影響を与える重要な要素であり、国家の首脳が先頭に立って取り組むことが肝要である



Asia-Pacific
Water Forum



【おことば】

皇太子殿下

- 2007年11月に、国連「水と衛生に関する諮問委員会」の名誉総裁に就任
- 世界の水と衛生に関する知見を広め、諮問委員長であるオランダ王国ウィレム・アレキサンダー皇太子殿下や委員と共に、力を合わせて活動に貢献したいとの決意を表明



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (1) 開会式



【ご挨拶】

福田康夫・内閣総理大臣

- 日本は水分野における国際協力で長い歴史と豊富な経験を有している
- 第1回アジア・太平洋水サミットが、G8北海道洞爺湖サミット(2008年)に向けて、強力な推進力になる
- 水がG8の議題のひとつになるだろうと語った



Asia-Pacific
Water Forum



【アジア・太平洋水フォーラムからの報告】

トミー・コー APWF執行審議会議長

- アジア・太平洋水フォーラムの活動を報告
- ホリジーフリー2007(アジア・太平洋水フォーラムからの提言書)の内容を報告
- 各国のリーダーに、水を政治の最優先課題にするために自らの責任を果たし、地域の水問題の解決に向けて、ともに力を尽くそうと呼びかけた



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (1) 開会式



Asia-Pacific
Water Forum



【基調講演】

オランダ王国ウィルム・アレキサンダー皇太子殿下

- 社会・経済の発展と水との共存を図ることは可能である
- 農村部・都市部における水問題の解決が経済成長を促す重要な鍵である
- 統合水資源管理こそが、持続可能な開発を実現する水管理のアプローチである
- アジア・太平洋水フォーラムの提言と国連「水と衛生に関する諮問委員会」の意見が一致していることを強調



【ビデオメッセージ】

潘基文 国連事務総長

- 人口増加や気候変動との関わりにおいてアジア・太平洋地域の水問題の深刻さを強調
- 水と衛生への投資は、健康、教育、社会・経済の発展という形で十分なりターンをもってかえてくる
- サミットの重要性と行動の約束の必要性を指摘



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (1) 開会式



【記念講演：皇太子殿下】

タイトル：「人と水ー日本からアジア太平洋地域へー」

- ネパールで女性や子どもが水くみに苦勞している状況を見て水問題の重要性、地球温暖化が水循環に与える影響を知り、幅広い水問題への関心を深めてきた
- 川や海は地域や国を隔てるものではなく、水運を通じて地域や国を結びつける
- 日本では古くから、「足りない水(渇水)」、「多すぎる水(洪水)」に対応しながら国づくりを行ってきた
- MDGsでは衛生施設の面で全世界もアジア地域も達成が困難な状況であり、新たな技術の発展に期待を表明された
- ヒマラヤの氷河融解や太平洋島嶼国での海面上昇等の地球温暖化による問題について、アジア地域でも被害が頻発していることに心を痛めている
- サミットで実りある議論がなされることに期待を表明された



【皇太子殿下のお誕生日に際しての記者会見の内容より(平成20年2月21日)】

私のこの一年間の公務の中でも特に印象に残っているものとして、第1回アジア・太平洋水サミットに出席したことが挙げられます。これは、国連事務総長からのお話で、国連「水と衛生に関する諮問委員会」の名誉総裁に就任して最初の活動でもありました。水の問題は、世界が直面している地球温暖化を含む環境問題や資源問題の重要な課題の一つです。今年も、名誉総裁としての立場で、水問題に関する様々な活動に取り組んでいきたいと思っております。



4. サミットでの議論 (2)首脳級参加者による講演



1st Asia-Pacific
Water Summit

<タジキスタン共和国・エマムアリ・ラフモン大統領>

- 水力による、安価で環境にやさしい電力供給に、近隣諸国と共同で取組みたい
- タジキスタンは、洪水、干ばつ、土石流、地すべりなどによって、自国経済に大きな損害を被っている
- 氷河融解でサズ湖は決壊の危険性があり、近隣国も危機にさらされている
- この湖水を近隣諸国に供給することを提案している
- アラル海の問題解決のために、中央アジア諸国が協力して取組む必要がある。

<キルギス共和国・ヌル・ウル・ドスボル副首相>

- 灌漑や排水施設は老朽化しており、多くの予算をあて施設の改善に努めている
- キルギスは山岳国であり、土石流、地すべり等の災害に見舞われているが、対策は不十分である
- 水資源の共同利用の考え方は各国によって異なり、中央アジアでの共同管理を模索中である
- 国際水エネルギーサミットを、首都のビシュケクで開催することを予定している。



タジキスタン共和国
エマムアリ・ラフモン大統領



キルギス共和国
ドスボル・ヌル・ウル副首相



4. サミットでの議論 (2)首脳級参加者による講演



1st Asia-Pacific
Water Summit

<パラオ共和国・トミー・レメンゲサウ大統領>

- 島嶼国は、国の存続と国民生活が淡水資源の入手にかかっており、淡水資源を注意深く保全・管理しなければならない
- パラオは雨量が多いと考えられているが、文字通り空から降ってくる雨だけに依存して、水管理の問題を解決することはできない
- 近く、流域保全に関する法律を制定し、地下水資源の管理を強化する
- また、近年は干ばつやサイクロンの頻度が増加してきており、水関連災害管理の能力強化が課題である

<キリバス共和国 キリバスアノテ・トン大統領>

- 小島嶼国は、常に淡水資源の確保に苦慮しているが、地下水は非常に脆弱で、塩水に汚染されやすい
- 水資源の賢明な利用・保護に対し、政府が率先して取り組まなければならない
- キリバスでは、「健全なコミュニティ、環境、持続可能な発展のための水」を国家の水政策に取り入れている
- キリバスは、ミレニアム開発目標を達成できるよう取り組んでいる



パラオ共和国
トミー・レメンゲサウ大統領



キリバス共和国
アノテ・トン大統領



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (2)首脳級参加者による講演



Asia-Pacific
Water Forum

<ナウル共和国:ルドウィグ・スコティ大統領>

- 長期にわたる干ばつによって、しばしば水不足に見舞われている
- 代替水源を特定・評価する研究、及び基本的衛生設備の普及計画の策定などを国家として行っている
- これらは、水資源管理の改善や地下水の保全を目的とする大きな戦略の一環である
- 気候変動への適応と緩和の領域で、なすべきことは多い



ナウル共和国
ルドウィグ・スコティ大統領

<ミクロネシア連邦:エマニュエル・モリ大統領>

- わが国は自然環境に恵まれているが、同時に発展途上の島嶼国として、世界の場でどのように対処していかなければならないかを自覚せざるをえない大きな問題に直面している
- 水は生命、社会・経済の発展に不可欠であるが、気候変動の悪影響を受けており、水資源に乏しい島嶼国では特に問題である
- 気候変動の悪影響は現実のものであり、すでに目に見えるものとなっている



ミクロネシア連邦
エマニュエル・モリ大統領



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (2)首脳級参加者による講演



Asia-Pacific
Water Forum

<ニウエ:ヤング・ビビアン首相>

- 最大の懸念は、海面上昇によって生じる地下水の塩水化である
- 気候変動の影響を緩和しない限り、小さな島嶼国は消滅するか、無人島になってしまう
- 今京都議定書に調印していない国々は早期に調印すべきである
- そのことが、島嶼国や途上国の低標高地域における気候変動の影響に注意を向ける方法である
- 気候変動で安全な水へのアクセスが困難になり、ニウエにとっても将来の困難な課題となる



ニウエ
ヤング・ビビアン首相

<ツバル:アピサイ・イエレミア首相>

- ツバルは、水資源を雨水貯留、貯水池、地下水、海水の淡水化に依存している
- 基本的なインフラの整備が喫緊の課題であり、国際社会の支援を必要としている
- 温暖化による海面上昇は、地下水資源の減少をもたらしている
- 他の地域で開発された衛生技術は、水を消費し、地下水や海洋汚染の原因ともなっている



ツバル
アピサイ・イエレミア首相



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

4. サミットでの議論 (2)首脳級参加者による講演



Asia-Pacific
Water Forum

<ブータン王国:キンザン・ドルジ首相>

- ブータンの壊れやすい山岳地帯の環境は温暖化の影響を強く受ける
- 国家収入の40%は水力発電に依存している。また、国民の71%は農業に従事しており、いずれも急激な氷河の後退に影響を受ける
- ブータンは水資源と流域の保全を国家開発計画の重要課題に位置づけている



ブータン王国
キンザン・ドルジ首相



4. サミットでの議論 (3)セッション



Asia-Pacific
Water Forum

ヒマラヤ地域における気候変動、氷河、水資源
主催者: 国際総合山岳開発センター

水に関する行動への最高経営責任者の責任
主催者: 国連グローバルコンパクト

【プログラム】

基調講演(インド水資源大臣、中国水利部副部長、山本国土交通大臣政務官、野口健氏)

パネルディスカッション

パネリスト: ブータン首相、ネパール水資源大臣等

【プログラム】

アジア・太平洋水シナリオの発表

パネルディスカッション

進行: 幸田チャーミン 国連広報センター所長

パネリスト: ミクロネシア連邦大統領、GWP総裁、アジア・太平洋地域のビジネスリーダー10数名

【概要】

-氷河が急速に後退しており、下流域の住民は氷河湖決壊洪水などの深刻な脅威に晒されている

-水資源に関わる気候変動とその影響を評価・モニタリングするために情報共有を進め、ヒマラヤ地域の各国間の協力の推進が不可欠である

【概要】

-数多くの水に関する具体的な成功事例の紹介

-2007年7月に、水問題への取り組みを提唱企業が誓約した「CEO水マニフェスト」への支持を呼びかけ





4. サミットでの議論 (3)セッション



水に関わる投資とその効果のモニタリング
主催者: 国連アジア太平洋経済社会委員会

「2008国際衛生年」の地域発進式
主催者: JBIC, UNESCAP, UNDESA, UNICEF, WHO

【プログラム】
KRA4の検討結果と提言の紹介
講演(ネパール財務大臣等)
提言に関する技術討論、具体的な取り組みに関する討論(UNESCAP、FAO、ADB、WHO他)

【プログラム】
開会挨拶(田波JBIC総裁、並木環境大臣政務官)
開会宣言(オランダ王国皇太子殿下)
世界とアジア・太平洋における衛生
政府及び公共部門から得た教訓
パネルディスカッション(民間部門/市民社会の役割)

【概要】
-緊急的ニーズである「投資とその効果のモニタリング」をいかに政策に反映し、「統合水資源管理」や「水と衛生」といった課題と結び付けていくべきかについての議論

【概要】
-各国政府に対する地域の衛生に関する課題解決に向け、各種枠組みとの協調、橋本アクションプランの確実な実施に向けた取り組みの強化に関する呼びかけ
-G8サミットの議題に衛生を取り上げるよう日本政府へ要望
-「世界衛生プロジェクト」のウェブ運用の開始



4. サミットでの議論 (3)セッション



水と気候に関する島嶼国対話
主催者: 太平洋諸国応用地球科学委員会、水災害・リスクマネジメント国際センター

アラル海流域における水の安全保障確保のための約束: 協力と競合
主催者: アラル海救済国際基金

【プログラム】
ビデオ上映(島嶼国と気候変動)
パネルディスカッション(キリバス大統領、サモア公共事業・インフラ・交通大臣等)

【プログラム】
基調講演(IFAS総裁: タジキスタン大統領)
各国代表団講演(カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、アゼルバイジャン、アラル海救済国際基金)

【概要】
-島嶼国の気候変動による水災害や水資源の面での脆弱性に関して議論
-現実に起きつつある変化や行動の必要性について、切実な訴え
-「災害対応」から「災害リスク低減・災害管理」へのパラダイムシフトの必要性の議論

【概要】
-各セクター(灌漑、水力発電、環境等)間の水需要の調整の必要性
-特に越境河川管理の課題有する場合の課題と協力の必要性





4. サミットでの議論 (3)セッション



水関連災害管理

主催者: 水災害・リスクマネジメント国際センター

発展と生態系のための水

主催者: 国際自然保護連合、国連食糧農業機関

【プログラム】

講演(山本国土交通大臣政務官、インド水資源大臣、中国水利部副部長)
発表(UNESCO、WMO、ISDR、ADB等)

【プログラム】

基調講演(ネパール水資源大臣)
パネルディスカッション(ネパール水資源大臣、フィジー財務大臣等)

【概要】

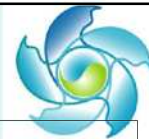
- 水関連災害リスク低減の国家開発計画への統合の必要性に関する議論
- 増大しつつある気候変動に伴う災害リスクへの適応を最優先課題として認識すべきである

【概要】

- 長期的な視点から、発展と環境の双方に便益をもたらすための水の確保方策について議論
- 政治的意思の重要性
- ローカルレベルでのガバナンス強化の重要性



4. サミットでの議論 (3)セッション



アジア・太平洋地域における水の安全保障確保のためのリーダーシップ: 知識、資金調達、人材育成
主催者: ADB、PUB、UNESCO、JBIC、JICA

地域の行動のための能力向上
主催者: 国連ハビタット、ストリームズ・オブ・ライフ

【プログラム】

基調講演(黒田ADB総裁、ラオス水資源・環境庁長官、ネパール財務大臣)
パネルディスカッション(オランダ王国皇太子殿下、冬柴国土交通大臣、フィジー財務大臣、ブノンペン市水道公社総裁、GWP総裁)

【プログラム】

基調講演(UN-HABITAT)
テーマ別発表(フィリピン天然資源省長官、インド水パートナーシップ会長、SOK会長)
パネルディスカッション(インド水資源大臣、小嶋静岡市長、水とジェンダー連合議長他)

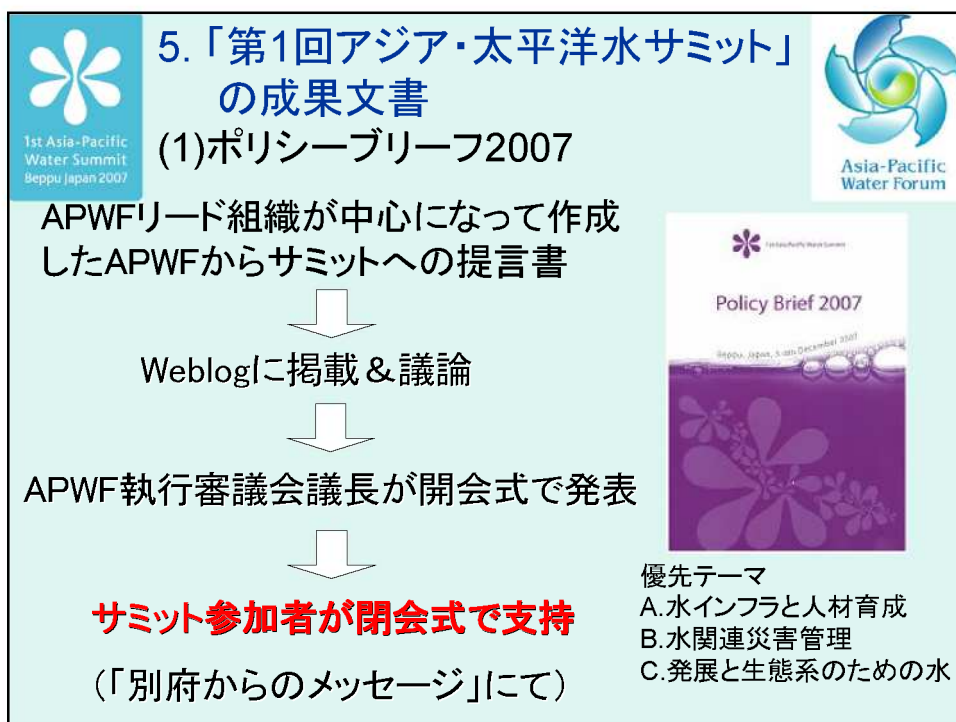
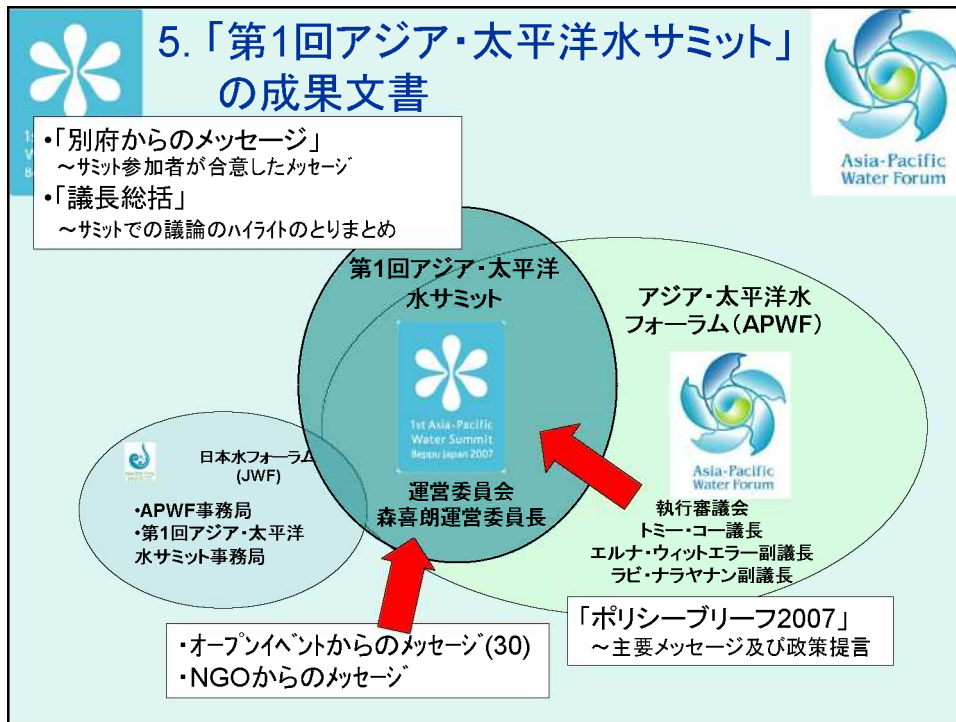
【概要】

- 「水への投資は貧困削減への投資である」
- 政府と水利用者間のコスト分担や、経済成長による余剰資源の水インフラ整備への活用等、様々な金融メカニズムについて議論

【概要】

- 地域の能力向上に資する「能力開発ハブ」形成のための具体的取り組みの発表
- この取り組みは、NGO、市民社会、地方自治体等が連携を促すもので、3つの優先テーマを支持するものである







1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5. 「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書

(1) ポリシーブリーフ2007



Asia-Pacific
Water Forum

水インフラと人材育成

- 発展途上国の水問題は管理可能である
- 水と衛生を、国、地域(アジア・太平洋)及び国際的レベルで最重要課題とする
- 主要な課題は、技術的問題、つまり水分野のハードウェアではなく、ソフトの問題である
- アジア・太平洋地域においてMDGsを達成するために、水資源分野への投資拡大が必要である。これは可能性の問題ではなく、意思の問題である



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5. 「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書

(1) ポリシーブリーフ2007



Asia-Pacific
Water Forum

水関連災害管理

- 気候変動によるリスクの増大への適応を最重要課題として認識しつつ、水関連災害リスク削減を国家開発計画に盛り込む
- 統合的水管理の重要性を認識し、水関連災害リスク削減のための総合的な構造的・非構造的手段を強化する
- 気候変動による影響を考慮して、水関連災害リスク削減のための国家目標と地域目標を設定する
- アジア・太平洋地域のために、水関連災害リスク削減に関する指標を作成する
- 水関連災害の警報システムとともに人的能力を開発する



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5. 「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書

(1) ポリシーブリーフ2007



Asia-Pacific
Water Forum

発展と生態系のための水

- 流域規模で健全なガバナンスを実施する
- 水資源管理が経済、社会、環境に与える影響を改善する
実践的な方法を採用する
- 水の生産性向上のために、農業用水資源管理を再考して、
投資を行い、農業生産による環境への影響を軽減する
- 都市環境を守り、再生する
- 水供給能力に及ぼす気候変動の影響に備え、直ちに便益
を生み出す緩和・適応策を採用する



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5. 「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書

(2) 別府からのメッセージ



Asia-Pacific
Water Forum

サミットでの議論の結果をメッセージ としてとりまとめ



書記が閉会式で発表



サミット参加者が合意





1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5.「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書 (2)別府からのメッセージ



Asia-Pacific
Water Forum

序文

我々アジア・太平洋地域のリーダーは、各国のあらゆる分野を代表し、温かいもてなしのもと、日本国大分県の美しい都市、別府において開催された記念すべき第1回アジア・太平洋水サミットに結集し、次のような合意に達した。

- ・ 人々が安全な飲料水と基本的衛生設備を入手することは、基本的人権であり、人間の安全保障の基本であることを確認する。
- ・ この地域において安全な飲料水を利用できない人々の数を、2015年までに半減し、2025年までにゼロを目指す。
- ・ 現在ほど水を必要としない新しい、革新的な衛生システムを採用し、基本的衛生設備の利用できない人々の数を、2015年までに半減し、2025年までにゼロを目指す。
- ・ 水と衛生を各国の経済・開発計画や政治課題における最優先課題とし、水と衛生分野への資金の配分を大幅に拡充する。
- ・ 特に貧困層に大きな影響を及ぼすゆえに、水管理に関するすべての面で、ガバナンス、効率性、透明性、公平性を向上させる。



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5.「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書 (2)別府からのメッセージ



Asia-Pacific
Water Forum

- ・ 女性は社会的弱者である一方、粘り強い活力を有し、進取的である。従って、すべての水関連活動において、女性の能力を向上させなければならない。
- ・ 洪水、干ばつ、その他水関連災害の発生を防止、削減し、犠牲者を適時に救援、支援できるように、早急に効果的な行動をとる。
- ・ 気候変動の影響を受けやすい島嶼国における、生命・財産を守る取り組みを早急に支援する。
- ・ ヒマラヤ山脈地域における冠雪・氷河の融解、海面上昇等、地域の一部の国では、すでにこの影響が現れている。水と気候変動の関係を討議に組み入れるよう、バリ会議に提言する。
- ・ 2008年に開催されるG8北海道洞爺湖サミットに向けて、具体的な目標を設定する。
 - 発展途上国がMDGsの水と衛生に関する目標を達成できるよう、支援を行う
 - 発展途上国による、気候変動への適応を支援するために、直ちに行動を起こす



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

5. 「第1回アジア・太平洋水サミット」 の成果文書

(2)別府からのメッセージ



Asia-Pacific
Water Forum

- ・各国は、閣内にあるハイレベルの調整システムの権限を拡大する。可能な国では水担当大臣を任命し、水と衛生に関するすべての問題を統合的に扱う。
- ・都市の水路網を修復し、農村地域の環境の健全性を保全するなど、この地域の水に育まれた社会の豊かな歴史を尊重する。
- ・水の安全が保障されたアジア・太平洋地域という地域全体のビジョンを達成するために、志を一つにするすべての団体、個人が力を合わせて取り組む。

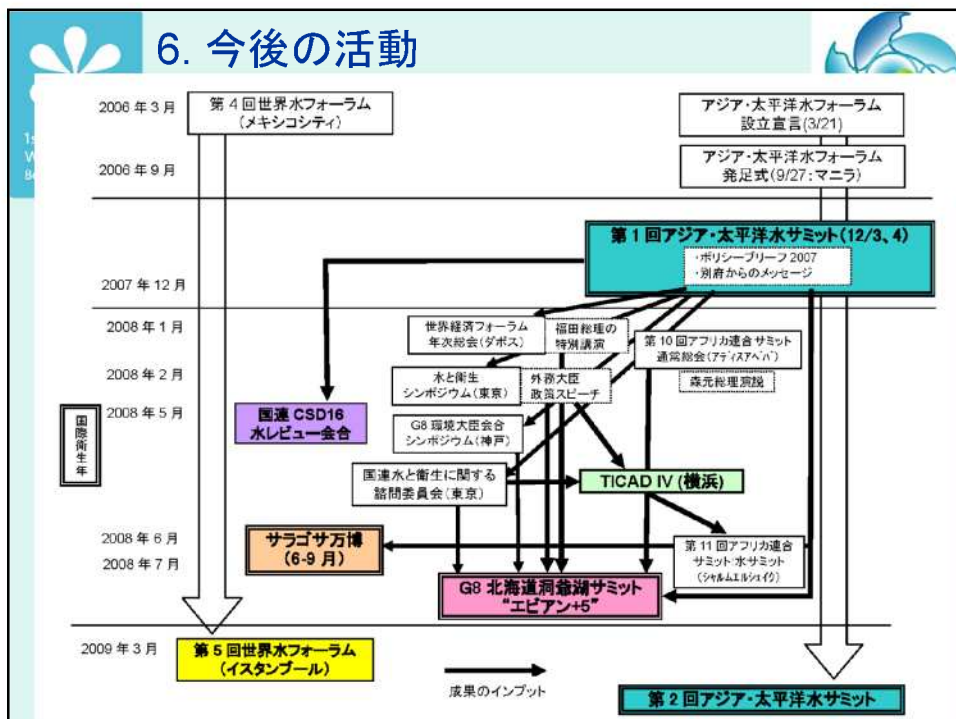
我々は、アジア・太平洋水フォーラムの仲間が作成したポリシーブリーフを支持する。

我々は、この提言の実施に向け、各国政府の努力を促す。

我々には、このビジョンを実現する意志と勇気がある。



6. 今後の活動





1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

7. サミット後の動き

(1) 鴨下環境大臣のツバル訪問



Asia-Pacific
Water Forum

1月1日(火)にツバルを訪問し、イエレミア首相と会談するとともに環境の状況等について視察

概要

- ・イエレミア首相との会談
 - 鴨下大臣よりイエレミア首相に福田総理の親書を手交
 - 気候変動問題への対応について意見交換
 - 2月から3月にかけて専門家による調査団を派遣し、日本としての具体的な支援策を検討することを表明
 - バリでの合意を踏まえ、今後、G8洞爺湖サミットに向けて、先進国による島嶼国等の途上国への支援などについて、日本がリーダーシップを発揮したい旨表明
- ・視察等
 - 海水の浸水に見舞われた地域(プラカ(タロイモの一種)の栽培場所、集会場、海岸沿いの家屋)
 - 浸食が進んでいる海岸
 - 廃棄物の投棄場所



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

7. サミット後の動き

(2) 第169回国会における福田内閣総理大臣施政方針演説より(平成20年1月18日)



Asia-Pacific
Water Forum

- ・地球環境問題に国際社会全体で取り組んでいく動きを後押しするため、途上国支援や環境被害対策、先端技術の開発といった各国共通の課題に対し、資金面はもちろんのこと、人的・技術的な面でも貢献していきます。
- ・志を同じくする途上国の温室効果ガス削減努力に対する支援や、干ばつ、洪水など、気候変動に伴う環境被害への対策を実施するための「資金メカニズム」を構築します。
- ・昨年12月、私は大分で開催された「水サミット」に出席しました。そこでツバルのイエレミア首相は、「地球温暖化によって島国であるツバルが、海に沈む」と衝撃的な危機を訴えられました。そのため、本年の元日に環境大臣にツバルまで行ってもらい、最新の報告を受けました。そして、直ちにツバルの支援を検討し、同時に地球温暖化に立ち向かう決意を新たにいたしました。



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

7. サミット後の動き

(3)ダボス会議における福田内閣総理大臣 特別講演より(平成20年1月26日)



Asia-Pacific
Water Forum

・世紀の変わり目に、国際社会は高い理想を持って、ミレニアム開発目標をまとめました。今年は、2015年までに達成すべきこの目標のちょうど中間年にたります。私は、「人間の安全保障」の観点から、サミットで「保健・水・教育」に焦点を当てたいと考えています。

・水の問題も、温暖化が進む中で国際的に議論すべき課題です。水害は深刻な脅威です。安全な水無くして健康なし、水へのアクセスなくして発展なし。循環する資源である水の有効管理に向けて、国際的な協力を進めたいと思います。



出典: 総理官邸ホームページ



G8



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

7. サミット後の動き

(4)第10回アフリカ連合総会における森元総 理による演説より(平成20年1月31日)



Asia-Pacific
Water Forum

・いま、地球はまさに破壊の危機に瀕しています。具体例は枚挙に暇がありません。北極の氷山が崩れはじめています。ヒマラヤの山頂の氷が溶け始め、下へ下へと流れ出ており、ネパールやブータンといったヒマラヤの麓の国々は、氷河湖の決壊による大洪水の可能性に直面しています。一方、太平洋では水位が上昇しており、ツバルやキリバスをはじめとする島嶼国は、あと50cm位が上がれば国そのものが沈没するおそれがあると聞いています。

・こうした事態を受け、我が国も温暖化への取組を強化しています。福田総理大臣は、先日のダボス会議において、「クールアース推進構想」を提示し、初めて国別総量目標を設定することに言及したほか、100億ドルの途上国支援「クールアースパートナーシップ」を発表しました。



TICAD IV



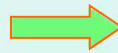
1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

7. サミット後の動き

(5)水と衛生シンポジウム:「国際衛生年記念— 『アフリカとアジアへの行動に向けたプラットフォーム』 における高村外務大臣政策演説より (平成20年2月22日)



- ・我が国は、「水と衛生」の分野において、1990年代から継続的に世界のトップドナ―であり、2001年から2005年までの5年間は、49億ドルに及ぶ援助を実施しました。
- ・水問題への対応は地球規模で行わざるを得ません。国際的な協力が不可欠なのです。私は、水問題に対する地球規模での取組を強化することを改めて国際社会に呼びかけます。
- ・福田総理は先般のダボス会議で、北海道洞爺湖サミットにおける重要課題の1つとして、「保健・水・教育」を挙げました。元気なアフリカを目指すTICAD IVでも、様々な角度から水と衛生の問題は言及されることでしょう。
- ・地球の将来を守り、明るい未来に向けた確実な一歩を記すために、TICAD IVとG8北海道洞爺湖サミットの議長国として、「水と衛生」の議論を主導していく決意であることを改めて申し上げて、私の演説を終わります。



G8、TICAD IV



1st Asia-Pacific
Water Summit
Beppu Japan 2007

無謀な試みが成功したのも
地元大分の皆様のおかげです。
ありがとうございました。



今後とも、よろしくお願ひします！